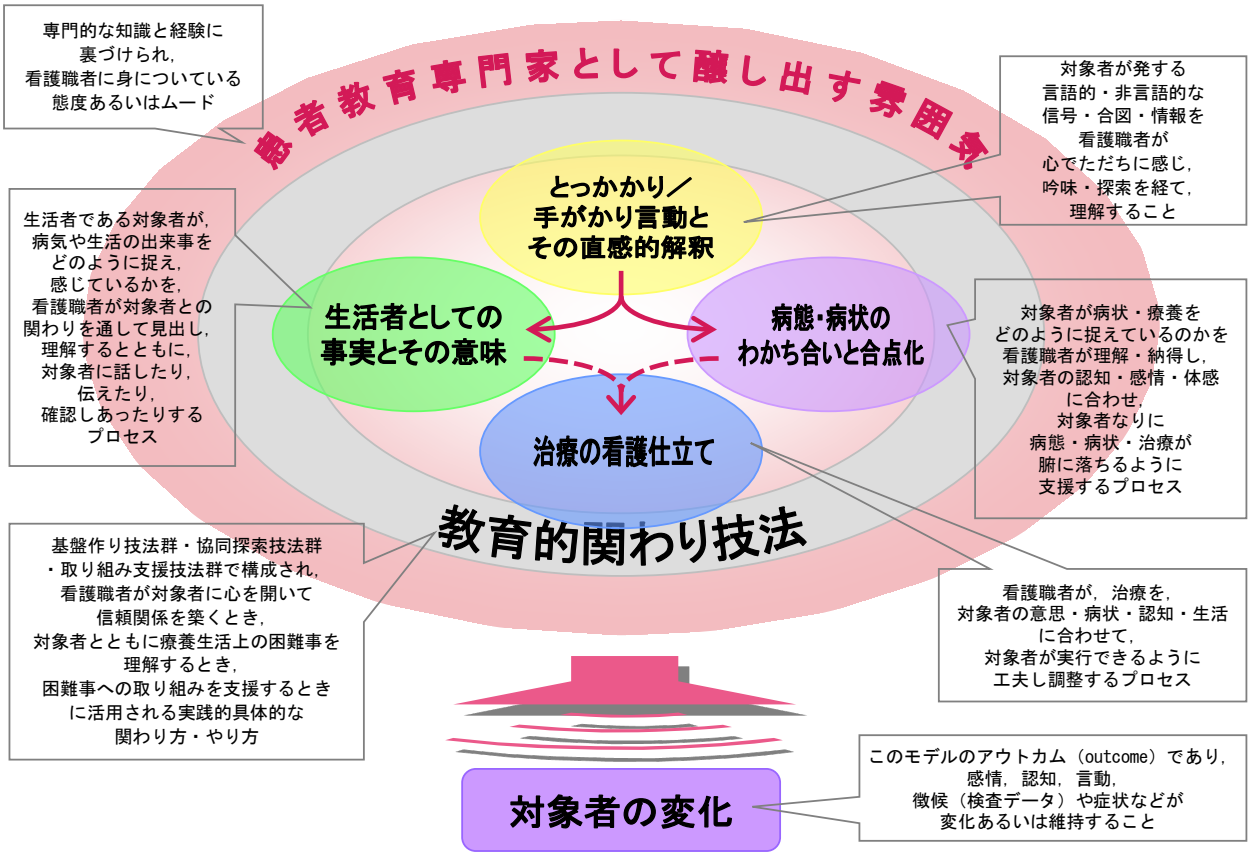
患者教育における熟練看護師のプロの技 ～患者教育専門家として醸し出す雰囲気～

患者教育研究会代表：河口てる子[1]
メンバー：井上智恵[2]，東めぐみ[1]，太田美帆[3]，長谷川直人[4]，大澤栄実[5]，安酸史子[6]，岡美智代[7]，道面千恵子[8]，小林貴子[9]，近藤ふさえ[10]，伊波早苗[11]，横山悦子[10]，滝口成美[12]，小田和美[13]，小平京子[14]，恩幣宏美[7]，伊藤ひろみ[15]，下田ゆかり[16]

[1]日本赤十字北海道看護大学，[2]大阪医科大学附属病院，[3]東京家政大学健康科学部看護学科，[4]自治医科大学看護学部，
[5]独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター，[6]関西医科大学看護学部，[7]群馬大学大学院保健学研究科，
[8]九州大学大学院医学研究院保健学部門，[9]横浜創英大学看護学部，[10]順天堂大学保健看護学部，[11]草津総合病院，[12]大森赤十字病院，
[13]札幌市立大学看護学部，[14]関西看護医療大学看護学部，[15]元砂川市立病院，[16]杏林大学医学部付属病院看護部



看護の教育的関わりモデル Version 8.0(通称:TKモデル)

看護の教育的関わりモデル Version 8.0（通称：ＴＫモデル）

「看護の教育的関わりモデル」とは、看護職者が、医学・医療の専門的な判断をしながら、いかなる状況においても対象者の価値観や信念に添いつづけようとする、看護職者の直感・認知・行為を説明した患者教育実践の概念モデルである。それは、看護のあらゆる場面、機会を活用して、対象者の生活習慣やこだわりに耳を傾け、生活者としての価値観を尊重し、病態・病状を納得できるように支援しながら、対象者とともに療養方法を見出し、時には治療をその人の生活習慣に引き寄せるように調整するなどの看護実践を示している。

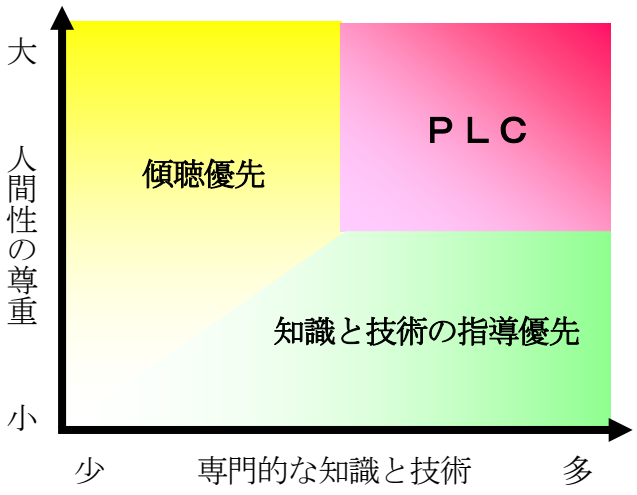
対象者の変化の例

	対象者の気になる状況	望ましい変化
感情	悲しみ、恐怖、怒り、不安、つらい、苦しい、重たい気持ち、先が見えない、突き落とされる感じ、情けない、憤り、不信感、不満、自己効力感が低い、無力感、希望がない、感情表出が少ない、自覚的 QOL の低下	安心、喜び、気が楽になる、気が軽くなる、救われた気持ち、ほっとする、信頼、満足、自己効力感が高い、気力が出てきた、希望がでてきた、自覚的 QOL の改善
言動	アクションプランを実施しない、血糖測定をしてこない、非効果的な療養行動、人任せ、治療中断、定期通院しない、目をそらす、質問しない、腕を組む、のけぞる、緊張した声のトーン、隙だらけの背中、肩を落とす、悲しげな背中、涙、日常生活に支障がある、家庭内での役割を果たせない、他人事のこととして病気を捉えた発言	目を見て話す、質問してくる、アクションプランを実施する、血糖測定をする、自己選択、自己決定、自分から話しかける、定期通院、柔らかな声のトーン、日常生活に支障がない、社会的な役割を果たすことができる、自分のこととして病気を捉えている発現
認知	わからない、データの意味が解釈できない、療養行動に必要な知識不足	わかった、合点がいく、納得、データの意味を解釈できる
表情	硬い表情、こわばった顔、眉間のしわ、口角がゆがむ	目の輝き、穏やかな表情、笑顔、
徴候（検査データ）や症状	コントロール不良／悪化する／改善せず、合併症の出現、HbA1ｃの変化	コントロール良好／悪化しない（維持）、自覚症状改善
環境（人的･物的）	家族の過干渉、職場の同僚や上司の無理解、融通の利かない生活環境	穏やかな家族の見守り、職場の同僚や上司の協力、融通の利く生活環境

ＰＬＣの定義と構成

定義：
専門的な知識と技術に裏づけられ、効果的な患者教育の成果を導く、専門家に身についている態度あるいはムード

構成：



ＰＬＣの１１要素（ＰＬＣが体現されやすい態度あるいはムード）

①心配を示す：対象者の幸福と成長・発達への願いや望みを抱きながら、対象者の心配事や困り事に対して看護職者として心配していることを態度で表すこと

②尊重する：対象者と看護職者としての関係の前に、人間対人間の関係として、対象者の潜在能力に対して畏敬の念を持ち、対象者の成長・発達しようとする努力に向けられる敬意の気持ちをもつこと

③信じる：病気とともに生きている対象者一人ひとりがどこかに良くなりたいという希望や願いがあることを信じて関わること

④謙虚な態度である：知的謙虚さをもって対象者と対峙することで、対象者の努力や生活の知恵を聴くこと

⑤リラックスできる空間を創造する：対象者が緊張感を和らげ、安心して感情を表出したり、落ち着いて自分のことを振り返ったり、看護職者と打ち解けた対話をしながら今後のことを考えるために、リラックスできる空間を設定すること

⑥聴く姿勢を示す：対象者の思いを理解しようとし、看護職者の内面に生じる主張や感情をコントロールしながら、一貫して聴く態度を継続して示すこと

⑦個人的な気持ちを話す：看護職者が個人的な気持ちを話すことで、対象者が親しみを感じ、人間的な弱みなどを見せやすくすること

⑧共に歩む姿勢をみせる：医療従事者が共に歩む姿勢を見せ、病気とともに生きている対象者が大きな励ましと安心感を得るようになること

⑨熱意を示す：熱意を示し、一度でも対象者が看護職者の言うことに耳を傾けるようになったり、行動を変えたりするようになること

⑩ユーモアとウィットを言う：医療者とのユーモアやウィットに富んだ会話により、対象者の気持ちをほぐし、肩の力を抜いて、また新たに療養行動をとろうとする気持ちになってもらうこと

⑪毅然とした態度を示す：対象者に合わせるだけでなく、時には専門家としての毅然とした態度を示すことで、結果として対象者からの信頼を得て、感謝されることにつながること